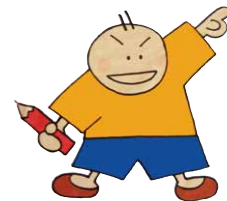


生活者ネットニュース



■発行:多摩・生活者ネットワーク ■発行責任者:原田恭子 ■連絡先:〒206-0014 多摩市乞田 1227-1-112 番地
■TEL:042-376-5758 ■FAX:042-376-8854 ■ホームページ <http://www.tama-net.jp/> ■E-mail:office@tama-net.jp

148号

地球上には人間以外の生き物が存在。生物多様性を保ちながら、もっと謙虚に生きる。 〜コロナに学ぶ未来社会〜

新型コロナウイルスに罹患している人の数が再び上昇する兆しが見えてきています。感染は皆怖いですが、市民による自粛警察も少なくありません。そして、手や身の回りの消毒を徹底し自己防衛します。確かに必要な行為でもありますが、行き過ぎると自由なはずの市民社会が監視社会になり、過剰な消毒は人間にとって有用な細菌まで殺してしまいます。潔癖主義は人間に対しても排除や差別の感情を呼び起こします。

効率優先が招いた つまずき

新型コロナウイルスによってまず驚かされたのは、マスクでさえ海外の輸入に依存し、国内で自給できなかつたことです。感染症との付き合いは今後も続くでしょう。命を守るためいざという時の防護服などの物的、医療や介護に携わる人的体制の確保は安全保障の基本と言えます。

守ろう市民の権利

2月27日の総理による臨時休校要請は子どもたちの学ぶ権利を突然奪い、子どもを持つ家庭では働く権利まで脅かされました。子どもの預け先がない親は不安を抱えながら子どもを連れて買い物に出かけたり、大きな子は子ども同士で公園で遊んだり買い物に出かけたり、学校にいたほうがずっと安全だったかもしれません。

また、学校を始めとして一斉に行われた公共施設の閉鎖も市

民の集会や学習する権利を脅かしました。こんな時こそ地域の人たちが情報交換できる場や機会を確保するべきでしょう。小規模の信頼共同体の中で集まりを可能にする工夫が求められれます。混乱期には市民を孤立化させない努力が必要なのです。

今後の社会を 展望しながら生きる

個人の暮らし方では少しずつ控えめに、少しずつゆっくりと、少しずつ落ち着いて生きることが賢明です。どんどん膨張と加速する経済に決別しなくてはなりません。静岡の川勝知事は「大井川の水資源が大切」とり



自粛期間中、自然の中で過ごす時間が見直された。多摩川との合流点近くの大栗川で

いほど高い防潮堤が立っています。価値観が変わらなかつたのです。地震や津波、集中豪雨、感染症など自然と一緒に暮らすということ

ニアモーターカーにストップをかけています。ロックダウン時、インド北部では都市封鎖中に大気汚染が大幅に減少し、30年ぶりに見えなかつた冠雪のヒマラヤが見えたというニュースが報告されました。また中国でもPN2・5等が30%



狛江市の公園では子どもにもわかる2メートルのめやすが工夫されていた

た中国でもPN2・5等が30%も減少したことも報告されました。人類の経済活動が自然に大きな負荷を与えていることは明らかです。2011年、3・11によって社会は大きく変わると思われましたが、変わりませんでした。原発は今も稼働し、沿岸地域では、海が見えないほど高い防潮堤が立っています。価値観が変わらなかつたのです。地震や津波、集中豪雨、感染症など自然と一緒に暮らすということ

そして ストップ温暖化

予想を超えた大雨が続き、河川の氾濫や土砂崩れが続いています。こうした気候変動は温暖化の影響と言われ、日本は世界でも温暖化による被害が大きいと言われています。5月25日、多摩市は「気候非常事態宣言」を表明し、2050年までに二酸化炭素排出を実質0にすることを目標に掲げました。私たちは何ができるか自分のこととして考え実践していかねければなりません。もう他人ごとではないのです。コロナ被害を受けて私たちは一歩前進しなければなりません。同じような混乱を招かないように、**持続可能な社会にむけて!**

その子らしい学習環境が必要と感じた、休校期間

何の前触れもなく突然始まった休校。家庭が学校・親が先生になることに慣れるのは容易ではありませんでしたが、コロナ休校の3ヶ月で見えたことがあります。

それは、学校が合う子と合わない子がいること。友達と一緒にやらざる気になる次男は、学校に行つた方が楽しく要領よく勉強できます。一方長男は、人が多いと気が散つて身が入らないタイプ。授業に支障が出て何度も担任と相談を重ねてきましたが、今回、マイペースに進めて確認しながらなら、問題なく学習が身につくことが分かりました。また、民間のオンライン授業も体験し、長男のようなタイプには有効だと感じました。多摩市もオンライン整備を進めているようですが、ただ「全員が机の一斉授業」か「全員がオンライン」かではなく、「その子に合った方を選べる」環境整備も必要です。合わない子は苦しみを抱えて通うか、学校を放棄するか、しか選択肢がない訳ではないのです。どんな特性を持つ子も、自分に合ったやり方なら前向きに学び成長できると、目の前の子ども達に教えてくれています。

「親子カフェおむすび」 石本寛子

議会報告

新型コロナウイルス感染拡大を防止するため、3月議会では一般質問を見合わせ、6月議会でも会派ごとの持ち時間で行われました。しかし、一方でこのような困難な時だからこそ、市政の課題や運営を質すこと、また市民の声を届けることも大事なことだと思います。一般質問は市民の権利でもあります。これが前例として踏襲されるのではなく、議会のチェック機能を発揮しながらも困難時はどう議事を動かすのか、模索していきたいと思います。

議会の動き(3月～5月)

3/3～3/15	休会
3/16～	予算審議
3/26	議会最終日(都知事の自粛要請からフェーズが変わったとし一般質問はなし)
5/14	国の10万円給付による臨時議会
3/30より毎週	議会災害対策連絡会 新型コロナウイルスの感染拡大を受け、情報の共有を行いました。

コロナ禍の多摩市議会の動き等

市議会議員 **岩崎みなこ**

多くの人を救う政策に舵取りを



これまで経験したことのない感染症の出現で都市は非常事態になりました。国や都、市の独自の支援策が飛び交い、国は、やっと10万円給付をはじめとするすべての人にいきわたる支援策をはじめました。

■難しい線引き
国は、介護、障がい施設に慰労金を出しますが、保育所や学童クラブは対象外です。このコロナ禍で線引きは必要でしょうか？そして、今6月議会に「保育施設、学童クラブ職員にも危険手当」の陳情がありました。

全てのエッセンシャルワーカーに暮らしは支えられています。あなたはそんなに困っていないでしょう。危険じゃないでしょう。もっと困っている人、危険な人がいると判断させる権利が誰にあるのでしょうか？子育て支援の対象も厳しさに

予防する対策を取り入れた教育活動が行われており、身体的距離の確保は感染防止の基本の一つであることは教育委員会も述べています。また最大で40人は教室の中で非常に密な状態ができています。これは事実であるが、様々な取り組みを組み合わせることで感染予防を取り組んでいくこと、また身体的距離をとるという意味では少人数で授業を受けることは一つの予防効果があるとの答弁もありました。教育委員会は学校に行き、子ども達の緊張や不安、そして先生方の負担の増大を目の当たりにしていると思います。多摩市でも少人数で授業が受けられるように予算をしっかりとつけて頂きたいと思えます。

さて、ドイツは、このコロナ禍、「アートの人生に不可欠」として大幅なサポートをしています。パルテノン多摩の改修に際し、文化振興条例も視野にある多摩市が肝に銘じる言葉です。コロナ禍で、舞台の裏方の方など仕事がなくなりましたが、この方たちを守らなければ、莫大なお金をかけても、ただのハコモノになってしまう危うさは否めません。

今、議会は冷たい判断はすべきではありません。まだまだ長期戦が予想されるコロナ禍、市は、仕組みがないから出来ないとせず、誰ひとり取り残さない多くの方を救う政策に舵を切るべきです。

おいてひとり親と両親がいる場合とで線引きするのはどうなのでしょう。アートは人生に不可欠

子どもの教育は平常時から少人数にすることで、非常時にもゆるがない教育環境が確保できるのです。

6月議会 一般質問より

市議会議員 **岸田めぐみ**

介護の実態から学ぶ 学校は少人数授業へ



■現場は人手不足と高齢化
多摩市で行われた介護保険事業調査では、人材確保の状況については、半分の事業所が、人材不足を訴えています。また多摩市の介護職員の4人に1人が60歳以上と高齢化が進む中、新型コロナウイルス感染症が流行りました。そのような状況下で、生活に必要な不可欠で命を守る介護の仕事に対し使命感を持ち、自分達が感染源にならないように日常生活にも神経をすり減らしながら介護の提供は行われました。コロナ禍においては、障がい、持病を持つ方の多い介護現場の機能低下は、そのまま医療機関の負担増大に繋がります。緊急時においても介護が止まる事がないよう、事業所の声を聞きながら、支援の準備が必要です。

■30人学級の実現を
6月より始まった学校では感染拡大を

予防する対策を取り入れた教育活動が行われており、身体的距離の確保は感染防止の基本の一つであることは教育委員会も述べています。また最大で40人は教室の中で非常に密な状態ができています。これは事実であるが、様々な取り組みを組み合わせることで感染予防を取り組んでいくこと、また身体的距離をとるという意味では少人数で授業を受けることは一つの予防効果があるとの答弁もありました。教育委員会は学校に行き、子ども達の緊張や不安、そして先生方の負担の増大を目の当たりにしていると思います。多摩市でも少人数で授業が受けられるように予算をしっかりとつけて頂きたいと思えます。



改修工事が予定されているパルテノン多摩。オープンは2022年の予定



上:市内中学校図書室の本の滅菌方法。返却されたらしばらく広げてから次の人に貸し出す



右上:コロナ禍のため実施が遅れたが、やっと実現できた学校給食のビン牛乳
右下:コロナ対策で学校に設置された蛇口。肘で開ける